

人道的奉仕活動

昨年度の RI のテーマが **Service above self** であったことに象徴されるように、昨今は社会奉仕や国際奉仕に属する人道的奉仕活動が盛んであり、あたかもこれらの活動がロータリー運動のすべてであるかのような錯覚すら覚えます。もっとも最初から職業奉仕を理解してもらおうと思って、シェルドンの奉仕哲学を説いても、それをすぐさま理解することはなかなか困難なことです。手っ取り早く、人道的奉仕活動の実践から入るほうが楽ですが、何時までもこの活動に留まり続けたり、この活動がロータリー運動そのものだと錯覚することは避けたいものです。実践活動には、その活動の動機となる理念が必要です。奉仕理念の研鑽から始まり、それが実践活動に繋がるのが本来の姿かも知れません。したがって、例え実践から入ったとしても、その原点となる奉仕理念の探求をおろそかにすることは許されないのです。

人道的奉仕活動には、社会奉仕と国際奉仕の二つの分野がありますが、この問題を論じる前に国際奉仕について整理をしておく必要があります。国際奉仕には、ロータリーの綱領第 4 項に明記されている「奉仕の理想に結ばれた事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって国際間の理解と親善と平和を推進すること」という国際奉仕の本来の活動分野と、近年、国際奉仕活動の主流となっている、外国の地域社会が必要としているプロジェクトに参画する世界社会奉仕の分野があります。ロータリーの歴史的背景からも、この世界社会奉仕を国際奉仕の分野に入れるのはおかしいことであり、社会奉仕 **Community Service** の **Community** の範囲が広がって、地球全体を **Community** と考えれば、人道的奉仕活動に入るべき国際奉仕活動はすべて社会奉仕に統合すべきものと思います。したがって今後の社会奉仕活動は、その対象を国内の地域社会だけに限定するのではなく、広く地球全体を対象にしなければなりません。

人道的奉仕活動を実践する際にもっとも陥り易い過ちは、往々にして、実施するプロジェクトが本当に現地の地域社会が必要としているプロジェクトかどうかを調査せずに実施していることです。

10 数年前、私の所属していたクラブの長老が社会奉仕委員長をしていたときに、新聞配達の少年に運動靴を贈呈したことで紛糾しました。貧しい生活だから新聞配達をしているという考え方。徒歩で一軒一軒新聞を配っているという考え方。実際は、旅行の費用を捻出するための新聞配達であり、バイクに乗って配っているという現実を知らない人のよい年寄りの発想であり、社会の現実とはかけ離れたものだったからです。

地域社会が必要としているニーズを探るためには、現地に直接赴く必要があります。特に遠隔の地で実施する世界社会奉仕では、現地における事前調査が必要不可欠です。

私が始めて地区の国際奉仕委員長をしたのは 1988 年でした。私は地区世界社会奉仕委員長と共にフィリピンに赴き、現地のロータリークラブと共にプロジェクトの事前調査を行い、今後の WCS 活動の拠点にするために、スラム地区にロータリー・センターを建設するという 5 万ドル相当の大規模プロジェクトと、医療器具・足踏みミシン・大工道具・文具提供、教育資金助成などの 1000 ドル程度の小規模プロジェクト 10 件を選びました。小規模プロジェクトは地区内クラブから希望を募ってスポンサーをお願いし、これに加わらなかったクラブで、この事業に参加を希望するクラブに大規模プロジェクトの共同スポンサーをお願いしました。

本来ならば、クラブが独自に世界社会奉仕のプロジェクトを探すのが原則ですが、事前調査までしてプロジェクトを選定できるクラブは限られていますので、私の地区ではこの方式が継続されてお

り、プロジェクトの事前調査には地区国際奉仕委員が、プロジェクトの竣工式や完成時には地区国際奉仕委員とスポンサークラブの会員が現地を訪ねることにしています。

実施国も当初のフィリピンから、現在はカンボジア、タイ、ネパール、インド、インドネシア、バングラディシュ、フィジー、ベトナムとアジア、太平洋一円に広がっています。

奉仕活動の実践はクラブ自治権の範疇にあります。したがって、私の地区では、世界社会奉仕の寄付は人頭割りにはしないで、実施を希望するクラブだけが参加する方式を守っていますが、ほとんどのクラブが参加を表明してくれます。有難いことです。

クラブが独自に計画した世界社会奉仕プロジェクトでも、これを公開して、もし他のクラブがこれに参加する意思があれば、共同スポンサーをお願いすることにしています。複数のクラブが参加すれば、原資が増えますし、DDFを活用してマッチング・グラントを申請すれば、さらに大きなプロジェクトにすることも可能となります。

2006年7月30日